二世豊竹古靱太夫床年譜

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
明治十一年（一歳）十二月十五日		金杉彌太郎、金杉銀藏の長男として東京淺草に誕生す。	
明治十八年（八歳）		竹本政子大夫につき義大夫節の手ほどきを受け、又、鶴澤清道に稽古を受く。	
明治二十年（十歳）一月		東京在住五世竹本津賀大夫の門に入り、竹本小津賀大夫と名乘り、明治廿一年十二月迄寄席に出演す。	
明治廿二年（十二歳）六月十五日		大阪に來り、二世竹本津大夫の門に入り、竹本津葉芽大夫と命名さる。	
八月廿六日初日（廿六日間）	文樂座 會稽山御狩之卷　大序より十番伐敵討之段 鎌倉三代記　三浦之助母閑居之段 國言詢音頭　大重内五人伐之段	師津大夫に隨ひ、初めて文樂座へ手傳ひに入る。	二世竹本津大夫庵となり、五世豊澤廣助に代り、二世鶴澤滝七合三味線となり、竹本越路大夫の合三味線五世豊澤廣助之世野澤吉兵衛休演、五世豊澤廣助之れに代る。
十月一日初日（二十日間）	同 俣　鬼一法眼三略卷　大序より五條橋之段 切　神靈矢口渡　四段目切	大序六波羅御所評定の段に竹本津葉芽大夫の名初めて番附面に記入さる	
十一月一日初日（十七日間）	同 菅原傳授手習鑑　大序より大切迄	役場　大序大内之段	

年次	劇場並に狂言	古報大夫に關する記事	滑稽現界一般
十一月廿三日初日（卅六日間）	文樂座 前　彦山權現誓助劔　大序より九ツ目迄 中　源平布引瀧　音羽山之段より紅葉山之段迄 切　大經師昔暦　大經師内之段より壽千代之萬歳	役場　彦山權現之段	本興行は十二月廿一日迄にて休演、改めて翌年春興行に持越し一月七日千秋樂
明治廿三年（十三歳） 一月十九日初日（十九日間）	同座 妹脊山婦女庭訓　大序より大切迄	役場　大序大内之段	初代玉七二世吉田玉助を相續す。
二月十五日初日（二十日間）	同座 前　八陣守護城　大序より八ツ目迄 切　本朝廿四孝　諏訪明神之段より怪物やしき之段	役場　天笠祈りの段	京都素人にて大曇寺堤を十八番とせる小調、調大夫と名乘り出座。本興行限り越路大夫、廣助東上す。
三月廿一日初日（十七日間）	同座 祇園祭禮信長記　大序より大切迄	役場　大序灌頂ヶ瀧之段	六世豊竹時大夫久々にて出座、三味線三世鶴澤鶴太郎。
四月十三日初日（廿二日間）	同座 前　一谷嫩軍記　大序より三段目迄 中　戀女房染分手綱　四條河原之段より子別れの段迄 切　新版歌祭文　野崎村之段	役場　大序堀川御所之段	東京二世竹本相生、大夫出座、和野澤三郎八兵衛を襲名、その合三味線を勤む、八兵衛は現今東京在住梅本香伯事鶴澤寛也本興行番附面大序西翁は、後年の故三世に鶴尾大夫となり。竹本南部大夫なり。
五月十五日初日（廿一日間）	同座 前　五天笠　大序怪石之段より雪降法臺之段迄 切　明烏六花曙　吉原揚屋之段	役場　大序怪石之段掛け合にて出語りと成る此時病氣休み	

六月十三日初日（十四日間）	前	同	大序より七ッ目迄	加賀見山舊錦畫
	中		新清水之段 大文字屋之段	紙子仕立兩面鑑
	切			御所櫻堀川夜討
九月一日初日（廿二日間）	浦島太郎倭物讀 つゞき六段	同	座	辨慶上使之段
十月一日初日（十九日間）	前	立春姿小松	同 大序より洞ヶ嶽之段迄	役場 大序加賀大領凱陣之段
	切	戀飛脚大和往來	飛脚屋之段より新口村之段迄	役場 海原千尋の戲れツレ
十一月一日初日（十三日間）	前	伊賀越道中双六	同 大序より八ッ目迄	役場 大序雲林院
	切	忠臣樗鉢植	植木屋之段	役場 大序鶴ヶ岡之段
十一月廿一日初日（廿一日間）	前	平假名盛衰記	同 大序より三段目迄	役場 大序義經進軍之段 高野山之段、（初役）石堂丸三
	切	茅萱桑門築紫轢	大内義弘館之段より奥の院萬燈之段迄	切 味線二世鶴澤叶後病氣の爲め重太郎代役 文樂軒人形芝居開場以來、子供大夫にて床を勤むるは是が初めとて大評判。

本外題は文樂翁の書直せしものにて五十年振りの上演、面白き語り場多し。三造四世鶴澤德太郎を襲名。

五世野澤吉兵衛出座、津大夫の合三味線となる。六世豊竹時大夫本興行限り退座。十月十日竹本資大夫（塚本嘉吉）函館にて歿す（法名好學調音信士。この人阪地にて四世竹本津賀大夫名跡を襲名す。十月廿二日四世竹本長門大夫（樋口吉兵衛）歿す、法名本壽院日長信士行年七十七

年次	劇場並に狂言	古報大夫に關する記事	浮瑠璃界一般
明治廿四年（十四歳）一月一日初日（十八日間）	文樂座 大内裏相馬錦畫　大序より大切迄	本興行より大序を拔ける。 役場　初役藤の棚之段口 三味線　野澤吉勝	二世竹本津大夫永々の間、度々芝居を預り出勤したる功に依り本興行に限り檜下に直る。豐澤龍糸、竹本久大夫となり初めて出座。
一月廿五日初日（十日間）	同座 前　出世太平記　大序より九ツ目迄 中　近頃河原達引　河原之段　堀川之段 切　嫗山姥　御殿之段　足柄山之段	役場　初役序中西八條館之段	竹本播磨大夫文樂座に出座することとなり下阪す。五世鶴澤友治郎（通稱建仁寺町）その合三味線となる。
一月		母病氣の爲め東京へ歸り暫時在住すこの間子供大夫の眞打として各席に出演し、後四世竹本播磨大夫（代地の師匠と云ふ）三味線鶴澤紋左衛門（播磨大夫合息）一座に加入、初代竹本綾瀬大夫（三味線初代鶴澤豐造）の二枚目に對し三枚目を勤む、三味線は野澤語龍（後に野澤鶴助と改名）なり。	
明治廿五年（十五歳）春	饅ヶ關 有栖川宮家御前演奏 日吉丸稚櫻　三段目 假名手本忠臣藏　九段目	日吉丸三段目 忠臣藏九段目　竹本津葉芽大夫 竹本綾瀬大夫	
明治廿六年（十六歳）三月		三世大隅大夫、清水町圓平一座の大夫元なりし神戸北長狹通六丁目料亭播半の主人（服部松之助）に見込まれて養子となる。	
六月	大隅大夫圓平一座東海道巡業	參加。	

八月

十一月一日

明治廿七年（十七歳）

三月廿六日初日

稲荷座

前　菅原傳授手習鑑　大序より四段目迄

中　新版歌祭文　座摩の前之段より油屋之段

切　壽式三番叟

養家播半に入る。

養父死去、戒名釋淨華行年四十二津葉芽大夫を養子とせしは潰れたる彦六座の下交渉を再興せんとの憾なりしがその引續き四國、中國を巡るに巡業後稲荷座再興、この座へ加入す。

役場　大序

役場　三番叟引抜ツレ三枚目

五月一日初日

同座

前　彌陀本願三信記　大序より大切迄

中　八百屋献立　新釈之段

切　花の上野譽石碑　志渡寺之段

役場　序中七原念佛停止之段
越前三國汐待之段口
三味線　鶴澤寛之助

替り役　道行ツレ五枚目
越前三國汐待之段奥
三味線　豊澤松三郎
（後に二世豊澤新左衛門）

六月一日初日

同座

假名手本忠臣蔵　大序より大切迄

役場　道行之段ツレ四枚目
天川屋之段口
三味線　豊澤猿二郎
（後に四世仙糸）
この役清水町圓平師に稽古を願ふ

花里、彦六座經營を引受け稲荷座と改稱す。五世竹本彌大夫（堀江）櫓下となり久々の田座、三味線二世豊澤龍助、庵は竹本大隅大夫。

七月

同座

前　碁太平記白石噺　夢吉之段より原揚屋之段迄

中　宿無圓七時雨傘　岩井風呂之段

切　近頃河原達引　四條河原之段より道行迄

役場　道行都の綱笠ツレ四枚目

年次	劇場並に狂言	古老大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
九月	前　稲荷座 伊賀越道中双六　大序より八ツ目迄 切　深川八幡之段　東海道四谷怪談　より和岩稲荷之段迄	役場　大序花見之段　新關所引抜日清戰爭日本全勝　落人之段 本興行にて退座、神戸なる養家に歸る。	竹本組榮大夫、竹本雛大夫と改名。九月三十日、七世鶴澤三二（通稱田村歌）歿す、法名釋彦樂、行年四十二。 十月三日、竹本町大夫歿す、法名釋宗泰、初め五世泰大夫の門に入り七大夫と稱せしが、後町大夫と改名、春大夫歿後兄弟子二世越路大夫の門に入る。
明治廿八年（十八歳）四月	文樂座	養家を不緣となり金杉家に復籍す。これより來阪、舊師津大夫を手賴り再び文樂座に入座、修業の再發足をなす。	
六月八日初日（廿八日間）	前　伽羅先代萩　大序より十冊迄 切　神靈矢口渡　頓兵衛住家之段	役場　初役鶴ケ岡八幡宮之段　三味線　豐澤竹三郎 替り役　大門口之段　土橋之段	四世豐澤濱右衛門退座。
九月廿九日初日（卅七日間）	同座 前　日吉丸稚櫻　續十冊 中　朝顔話　濱松之段　島田宿屋之段 切　御所櫻堀川夜討　辨慶上使之段　夜討之段	役場　初役猪狩りの段　三味線　豐澤竹三郎 この役松葉家五世廣助師匠につき竹三郎と共に稽古を受く、師匠の語られる所餘りに上手なるに驚く。	八月四日五世目鶴澤友治郎（通稱京都建仁寺町の師匠）歿す、法名觀響紫蓮齋翁禪定門、行年八十一。
十一月十三日初日（廿八日間）	同座 前　彦山權現誓助劍　大序より九ツ目段 中　和田合戰女舞鶴　市若初陣之段 切　新版歌祭文　油屋之段	役場　初役須磨浦之段　三味線　鶴澤三治郎	是にて冬休。

明治廿九年（十九歳） 一月一日初日 （卅七日間）	文樂座	役場	初役燒討之段 三味線　鶴澤三治郎 萬歳ッレ序切本能寺 替り役　湖水渡りの段 妙心寺口
前　繪本太功記續十一冊 切　戀娘背八丈 萬歳			
二月十四日初日 （五十日間）	同座	役場	初役奥御殿之段 三味線　豊澤竹三郎 初役　双六之段　鶴澤大三郎 三味線　三吉ッレ三吉 鶴澤鶴五郎 替り役　花若切腹之段 四條河原之段
前　加賀見山舊錦繪 中　近頃河原達引　四條河原之段 堀川之段 切　戀女房染分手綱　双六之段 子別れの段			
四月十一日初日 （六十四日間）	同座	役場	初役祇園一力之段 三味線　豊澤廣助 初役　道行　五世野澤吉兵衛 三味線　五世豊澤力彌
前　假名手本忠臣藏 大序より幕なし 十二段返し			
六月廿一日初日 （廿七日間）	同座	役場	初役北川村之段 三味線　豊澤竹三郎
前　鎌倉三代記續八冊 中　傾城阿波の鳴戸　長町裏之段より玉造之段迄 切　勢州阿漕ヶ浦　阿漕ヶ浦之段 鈴鹿山之段		替り役	初役辛崎之段 三浦母閑居之段中
九月八日初日 （卅八日間）	同座	役場	初役小栗柄之段 三味線　鶴澤寛次郎 初役　福岡屋敷之段 三味線　豊澤竹三郎 初役十人伐之段 三味線　豊澤豊之助 今の五世鶴澤花勇 本能寺之段中　鶴澤勇造 右大臣豊成館之段口
前　出世太平記　大序より九ッ目迄 中　鳴山古跡松　右大臣豊成之段 切　伊勢音頭戀寢刄　松原之段より十人伐之段		替り役	

本興行より野澤勝鳳元の鶴澤を名乗る。

花助四世鶴澤勇造名跡を相續す。

小綱四世鶴澤綱造襲名。

桐竹紋十郎、桐竹明星と改名。

四月十四日竹本南部大夫、（藤瀬源助）九州に歿す、法名釋大悟信士二世越路大夫門人初め龜久大夫後二世南部大夫襲名。紋十郎に戻る。

竹本津大夫、三味線野澤吉兵衛と別明星、紋十郎に戻る。

竹本津大夫の三味線鶴澤勝七と替る。

七

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	浮瑠璃界一般
十月廿四日初日（卅一日間）	前　文樂座 本朝廿四孝　大序より四段目迄 岸姫松攝鑑　鶴ヶ岡八幡宮之段 中　飯原兵衛館之段 切　明烏六花曙　山名屋之段	役場　初役桔梗ヶ原之段口 三味線　豊澤竹三郎 初役　鶴宮八幡宮之段口 三味線　鶴澤鶴五郎	
十二月一日初日（十七日間）	同　座 前　近江源氏先陣館　大序より八ツ目迄 切　心中天網島　河庄之段より道行迄	役場　初役醒ヶ井之段口 三味線　鶴澤三治郎 初役　道行戀の網島 三枚目ツレ 三味線　勝七外	是にて冬休。
明治三十年（二十歳） 一月二日初日（四十日間）	同　座 前　木下蔭狭間合戰　綴九冊 中　艷容女舞衣　酒屋之段 切　菅太平記白石噺　雷門之段 新吉原之段	役場　初役來作但家之段中 三味線　鶴澤鶴五郎 替り役　ツレ野澤吉兵 壬生村之段中、と 大序	英照皇太后陛下薨去に付、一月十三日より二月八日迄休演。此の時大序の大夫一人も來場せず皆首落。鶴澤勝七、壬生村の切を勤むる内舞臺にて發病、德太郎その代役を勤む六世竹本源大夫、初世竹本七五三大夫出座。
三月二十日初日（六十日間）	同　座 菅原傳授手習鑑　大序より大切迄	役場　車役虎王段掛合 初役三味線　鶴澤勝右衛門 初役天神段口 三味線　鶴澤鶴五郎 本興行中大夫櫻宮へ櫻見物に行き柘榴之段をすぼらし翌日首落とき閉まる。神戸の姉の許に戻り直ちに東京に至る。	竹本津大夫の三味線野澤勝鳳に代る 吉田三吾入座。